

令和6年度事業計画

【現状と課題】

令和5年度のいわて花巻空港の利用者数は、476,768人(前年度比125.2%、令和元年度比98.3%)と、令和4年度を上回ったが、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度を僅かに下回った。

前年度から増加した要因としては、ニューヨークタイムズ掲載の効果や新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、国内外の観光需要が回復してきたことなどが考えられる。

いわて花巻空港は、令和6年2月に開港60周年を迎えたことから、これを契機として記念事業の実施により空港の認知度向上や利用促進を図っていく必要がある。

1 国内線について

令和5年度の国内定期便の利用実績は444,054人となり、前年度(372,746人)比119.1%、71,308人の増加、令和元年度(438,405人)比101.3%、5,649人の増加となった。

一方、令和2年度末に就航した神戸線を除くと411,909人、令和元年度比94.0%にとどまっている。

コロナ禍における航空需要の落ち込みから回復基調にあるものの、コロナ前の水準には至っておらず、令和5年度下期ダイヤで一部の路線が減便又は期間運休となり、現在も減便が継続していることから、航空ネットワークの維持に向けた取組を強化する必要がある。

2 国際線について

台北線が令和5年5月から運航再開され、令和5年度の利用実績は30,975人となり、運航休止前の令和元年度(27,493人)比112.7%、3,482人の増加となった。

一方、上海線(令和元年度13,692人利用)は運休中となっている。

台北線の東北の他空港への就航状況を踏まえ、更なるインバウンド利用促進に向けて現地でのPR等の強化と、上海線の早期運航再開やその他国際線(チャーター便含む)の運航に向けた取組を進める必要がある。

こうした状況を踏まえ、令和6年度は次の事業に重点的に取り組んでいく。

重点方針

1 国内線利用促進事業

- 開港 60 周年を迎え、注目が高まるタイミングを生かして、記念事業の実施を通じた各種プロモーションに取り組み、県内外への露出強化を図る。
- 令和 5 年度下期ダイヤで減便・期間運休となった札幌線・名古屋線・神戸線への重点的な利用促進施策の展開を図り、需要の底上げによる早期復便や運航の安定化を目指す。

2 国際線利用促進事業

- 台北線の路線維持に向けて、航空会社や旅行会社に対する支援を行うとともに、現地でのプロモーションや県内向けパスポート取得助成等により、インバウンド・アウトバウンド双方の利用促進に取り組む。
- 上海線の早期運航再開に向け、航空会社等への働きかけを行うとともに、空港の受入態勢確保に取り組む。
- 国際線の路線拡大に向け、航空会社や旅行会社に対し、チャーター便の運航を働きかけていく。